

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F126310107537	設置等組織名	健康科学部（食品生命科学科）
大学名	京都光華女子大学	設置区分	私立	事業計画名	京都光華女子大学理系新学科開設事業
学校種	大学	都道府県	京都府		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		<全体> ①令和5年 9月 理系新学科設置調査室の開設（学内メンバーのみ） ②令和6年 4月 理系新学科設置準備室への移行（外部から有識者の招聘、職員の採用） <大学・自治体・企業等の連携関連の主な計画> ③令和5年 9月 京都府フードテック構想における学研フードテック研究部会（仮称）への参画 ④令和6年 5月 食関連、理工農系企業等と授業、インターンシップを含むカリキュラム検討開始 ⑤令和6年 8月 米国大学等への視察・訪問 <学生確保のための取組関連の主な計画> ①令和5年 9月 中高一斉訪問、出張講義等広報 ②令和5年10月 女子中高生を対象に新設学科に対する意識調査 ③令和7年 4月 新学科広報開始 ④令和7年 7月 女子高生・企業を対象としたニーズ調査 <人事・認可届出関連の主な計画> ①令和6年 8月 人事検討 ②令和8年 3月 新学科認可・届出	<全体> ①計画通り、9月に学内の教員・職員からなる設置調査室を設置した。 <大学・自治体・企業等の連携関連の主な計画> ①学研フードテック共創プラットフォームに複数の学内教職員が参画した。 <学生確保のための取組関連の主な計画> ①高校訪問は実施したが、出張講義等による広報は未着手である。 ②近隣高校の進路指導部教員を対象に新設学科に関する意識調査を実施した	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
				R6年度自己評価	リストから選択してください。
	フェーズ1 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出		令和8年3月 健康科学部食品生命科学科 設置認可申請予定			
フェーズ2	フェーズ1 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2		<学生確保のための取組関連の主な計画> ①令和8年 4月 新学科広報の強化 <新学科設置に向けた改修計画> ①令和8年 9月 新学科設置のため、改修工事開始 ②令和9年 2月 改修工事完了 <新学科機器備品> ①令和9年 3月 新学科用機器備品購入および設置 <カリキュラム関連> ①令和8年 5月 資格審査		○年度自己評価	リストから選択してください。
	開設又は定員増	令和9年4月 開設／定員増			
フェーズ3	フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
		<アセスメント関連> ①令和10年 7月 1期生授業等満足度調査（各セメスターごとに毎年実施） ②令和13年 3月 卒業生（1期生）満足度調査/卒業生就職先公表 <広報・設備関連> ①令和9年 6月 2期生確保に向けての広報（毎年実施） ②令和9年 12月 設備補充・点検（その他、毎年実施） <カリキュラム関連> ①令和9年 9月 FD・SD委員会の開催（毎年実施） ②令和10年 2月 1期生カリキュラムの点検、インターンシップ先の新規開拓		○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	京都光華女子大学
-------------	-------	-----	----------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	京都光華女子大学
-------------	-------	-----	----------

⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑥	特定成長分野に係る学部を設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	京都光華女子大学
-------------	-------	-----	----------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。			
計画通りに進んでいる	☒ チェック		

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック		

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	京都光華女子大学
-------------	-------	-----	----------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
京都フードテック基本構想では、ゲノム編集技術等による気候変動に耐性のある品種開発や、健康機能性を付与した新品種開発と商品化等を掲げている。新学科はこの課題を解決する人材育成を目指しており、その学修過程において、実際に同構想に参画する京都府、並びに企業と連携し、PBL科目として開講する。なお、本学では既にPBL科目「産官学連携プロジェクト」が複数テーマで開講されており、連携団体と包括協定を締結した上で、学生どうしが学科の専門性を活かした活動を展開し、商品開発まで至った実績もある。他大学との連携については、既述の大阪大谷大学と大学等連携推進法人の設立を両大学の目標として、連携開設科目の内容の検討に入っている。また、海外大学との連携については、女子学生比率が極めて高く、女子の理系学部設置に参考にされることの多い米国オーリン工科大学等と連携し、同学のカリキュラム等を常に取り入れながら、交換留学制度も設ける。	京都フードテック基本構想の具体的な取組組織である「学研フードテック共創プラットフォーム」には、本学の複数の教職員が参加登録を完了している。また、本学のPBL科目「産官学連携プロジェクト」については、2024度は5クラス開講しており、新学科の開設に合わせて、フードテックに関連するクラスを開講することもできる。同科目は、全学共通のリベラルアーツ科目であるため、新学科の学生のみならず、既存の学科の学生も受講することができる。このため、それぞれの学科の得意を生かしながら新しい食イノベーションを生み出す構想を検討している。大阪大谷大学との連携については、2023年10月に大学間連携に係る協定を締結し、協定内容として、「教育連携科目開発等による教育活動の充実、研究活動の共同推進に関すること」を提起している。海外大学との連携については、2024年度内に、米国のオーリン工科大学とハービー・マッド大学を視察予定である。	学研フードテック共創プラットフォーム事務局からは、例えば、「先端シーズフォーラム」として、環境循環型の安定食料生産技術の開発と海外からも注目を集める抹茶の研究についての紹介や、「発酵情報交換会」として、国内外から注目されている「発酵」に関心をもつメンバーが一堂に会する情報交換会などが実施されている。これらの会合を通じて引き続き、企業との連携を深めていきたい。なお、このような企業との連携は、2024年5月から開始する計画となっている。これに合わせて、企業と連携したPBL科目「産官学連携プロジェクト」の内容についても具体化する必要がある。また、大阪大谷大学との連携開設科目についても、新学科の開設年度に合わせて、適宜検討を開始する。米国のオーリン工科大学とハービー・マッド大学については、これらの大学カリキュラムを参考に工学部を開設した国内の大学がいくつかあるため、これらの大学からも情報収集する。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☒ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保については全国中高に対する教職一丸での訪問他、オープンキャンパスを活用する。また、本学が女子中・高校を併設する法人であることから、保護者等を含む説明会を実施し、提案する新学科への内部進学率の向上を目指す。初等中等教育における連携については、出張講義やJSTプログラムの他、「早期履修制度」を完備しており、入学前に大学の卒業単位を取得できる制度を有している。この制度に新学科科目を導入することで、中等教育との連携と学生確保を両立させる。社会人の受け入れについては、既述のリカレントプログラムを活用する他、新設学科に関連する資格取得に特化した支援制度を併設し、ニーズに対応する。留学生の受け入れについては、JPUE（日本大学連合学力試験）を活用する他、本学がUNHCR難民高等教育プログラムの協定校であることから、同制度を活用した難民・避難民（食料問題を抱える国の出身者が多い）を積極的に受け入れる。これらの内容をフェーズ1で整備する。	2023年度の中高一斉訪問は計画通り実施されている。この際、女子中高生に対する直接的な意識調査については、新学科設置が計画段階であるため実施できなかったが、訪問の際に対話した教員（N=77,主に進路指導部）からは、いくつかの情報を得た。主な集計結果としては、①理系の割合は全体の3割弱。その内、女子の割合は4割弱。したがって、全体のうち理系希望の女子は1割程度であること、②理系の中でも、農学・生物（バイオ）・食農については、他の理系分野に比べて希望する女子が多い傾向にあること、③数Ⅱ・数Ⅲの理系数学や物理が受験のハードルになる一方、受験科目からなくすことは、かえて疑問（不安）を与える可能性があること、等である。JSTプログラムについては、第3期（2024年度から3年間）の採択には至らなかったが、女子中高生の理系選択支援については自走して継続する。なお、JPUEを活用した留学生の確保については、既に今年度から展開されている。出張講義についても、2024年度の講義パンフレットには、フードテックに関する講義テーマを取り入れた。保護者説明会は、新学科設置を公式発表していないため、未着手である。早期履修制度については、新学科が開設された際には、学科科目を導入する。	本学に入学実績のある高校を対象とした進路指導等の教員への意識調査は実施しているものの、個々の女子中高生への意識調査は左記「取組実績、進捗状況」欄のとおり、実施できていない状況である。しかしながら、女子中高生への直接的な意識調査を実施する必要があると考えており、引き続きフェーズ1期間中において取り組んでいく。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	京都光華女子大学
-------------	-------	-----	----------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	京都光華女子大学
-----	----------

1.本事業対象となる学部等の状況

<合計>				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		年度																				
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
		女子学生数	人	***	***																	
		社会人学生数	人	***	***																	
		留学生数	人	***	***																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
		女子学生数	人	***	***																	
		社会人学生数	人	***	***																	
		留学生数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	***	***																	
		入学者数(B)	人	***	***																	
		女子学生数	人	***	***																	
		社会人学生数	人	***	***																	
		留学生数	人	***	***																	
	収容定員等	入学定員充足率 (B/A)	倍	***	***																	
		収容定員(C)	人	***	***																	
		編入学定員	人	***	***																	
		在籍者数(D)	人	***	***																	
		編入学者数	人	***	***																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	***	***																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	***	***																	
教員の状況	実務経験のある教員の 割合	教員数	人	***	***																	
		授業科目の単位数	単位	***	***	***									***							

大学名 | 京都光華女子大学

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	京都光華女子大学
-----	----------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分		小区分	項目	単位																		
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	511	511																	
			人	379	339																	
		入学者数	人																			
			人																			
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
			人	***	***																	
		入学者数	人																			
			人																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	511	511																	
			人	379	339																	
		入学者数(B)	人																			
			倍	0.74	0.66																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1998	1998																	
			人	4	4																	
		在籍者数(D)	人	1691	1502																	
			人	10	6																	
		編入学者数	人																			
			倍	0.85	0.75																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		平成30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況		選定～5年	選定～4年	選定～3年	選定～2年	選定～1年	選定													
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	11,500	15,775	10,032	15,985	29,622	20,512													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均） (E)	千円	14,420
本事業による助成金の額(F)	千円	323,125
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	22,498

特記事項